

韓国10～20代の「心の病」急増...

メンタルヘルス部署がある自治体2カ所だけ

AFPBB News



(c)NEWSIS© KOREA WAVE 提供

【KOREA WAVE】韓国で「心の病気」に悩む10～20代が急速に増えている。心の病気は社会構造的・個人的要因が複合的に作用、発生するという点で政府・自治体、民間の協力が重要だ。しかし、全国16の市道のうち、メンタルヘルスを担当する部署を置いているところは、ソウルと京畿道（キョンギド）の2カ所に過ぎず、改善が急がれる。

国民健康保険公団・国立中央医療院などによると、精神病院に入院した10～20代は2022年は入院患者全体の約22%にあたる1万6819人だった。入院患者5人に1人が10～20代だったわけだ。心を病む10～20代の増加傾向が続いている。昨年上半期だけで、前年度の10～20代の入院患者の65%（1万1016人）が精神病院に入院した。2022年に自傷・自殺で救急病院に搬送された患者4万3268人のうち、約46%（1万9972人）は10～20代だった。

最近、与党「国民の力」のペ・ヒョンジン議員を攻撃した中学生A容疑者も、うつ病がひどくなり、閉鎖病棟の入院を待っていたと主張した。警察の捜査で「双極性障害」（そう状態または軽そう状態とうつ状態とを反復する精神疾患）の診断を受けたとも話した。A容疑者の主張通りなら、数年間、精神的な問題を抱えてきた可能性がある。

心の病気を患う10～20代が急増した主な要因としては、低成長時代の労働市場の萎縮、不動産・株式・暗号資産（仮想通貨）など資産価値の変動と富

の相続などによる両極化の深化が挙げられる。

実際、経済協力開発機構の報告書を見ると、韓国の潜在成長率は2013年の3.5%から昨年初めて1%台（1.9%）に落ちた。今年は1.7%とさらに下落する見通しだ。自らを中産層と考える割合が2013年の43.9%から2016年には38.8%に5.1ポイント下落したという文化体育観光省の調査結果もある。

慶熙（キョンヒ）大病院精神健康医学科のペク・ジョンウ教授は「高成長時代が幕を下ろし、長期低成長時代に突入して仕事が見つかりにくく、たとえ見つけたとしても世代間認識の差は非常に大きい。1人世帯の割合が40%を超え、コミュニケーション窓口になったSNSを通して見る世の中は華やかなのに、現実とのギャップが大きく、むしろ孤独を感じやすい時代になった」と指摘する。

(c)NEWSIS/KOREA WAVE/AFPBB News